

審議会等名称	平成３０年度第２回 社会教育委員・公民館運営審議会委員 会議		
開催日時	平成３０年１１月１３日（火）１０：００～１２：００		
開催場所	江八幡市役所安土支所１階 消防指令室		
出席者	＜社会教育委員＞ ◎大橋委員 ○中江委員 楠亀委員 村地委員 福井委員 副会長○ 澤委員 村北委員 吉井委員 中野委員 三木委員 城念委員 重野委員 ＜説明者・事務局＞ （事務局） 奈良生涯学習課長 北村生涯学習課参事 岡田生涯学習課副主幹		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	所属名・担当者名： 近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課 岡田 電話番号：０７４８－３６－５５３３ Fax番号：０７４８－３６－５５６５ メールアドレス：045000@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録・要約	要約した理由	内容が整理され、記録として残すことに適しているため

事務局	1. 開会宣言
委員長	2. 委員長あいさつ
事務局	出席者の確認 → 議事を交替 (議長の委員長による議事進行)
委員長	3. (1) 部会の取組について
事務局	《彦根市社会教育委員の会議における部会の取組について》 ○彦根市社会教育委員の会議の取組について ～ 家庭・地域の教育力の向上をめざして～ 彦根市社会教育委員の会議委員長 ・部会制をターゲットにしてやったことではない。長い経緯の中で自然発生的に出てきた。「家庭の教育力の向上」に的が絞られ、学校と地域、学校と家庭、事業体が家庭教育の充実のために、如何にやっていったらいいのかをネットワークを組みながらやろうというのが目的。 ・部会は4つの部会「学校と家庭・地域の連携」「職場と学校・家庭・地域の連携」「地域活動の連携」「ネットワークづくりの具体的な方策」に別れ、提言をまとめることを視野に入れて、持続発展教育の視野を入れて展開。 ・部会は委員が自分の専門性、得意な分野を活かして、肩肘張らずに自由に自分の意見を述べ、相手の話を聞いてボトム・アップで皆さん合議のもと展開。 ・彦根の部会制がうまく機能していると仮定するのならば、おそらく目的が明確。 ・そのまちそのまちにはそれぞれの風土、伝統があり、それに根ざしたものを折りに触れて皆さんに申し上げ、30年以上に渡る検討・経緯があって今がある。 ・実績と課題の継承、PDCA サイクルで、螺旋階段のようにどんどん上にスパイラス・アップ。 ・社会教育委員は横のつながりが大事。選考の基準はバックヤードがみんな違う。バックヤードが違う人が横でつながると全体的な視野が広がる。互いの意見を尊重しあいながら、横のつながりが大事。 彦根市は共通のテーマをもちながら伝統を基盤にして今日の部会制を展開。近江八幡は、これからどうやって部会制を展開していったらいいかも含めて貴重なご意見をいただきました。私も社会教育委員になった時から社会教育委員は何かを考えておりまして、これまでの社会教育委員会であればいい。委員が社会教育委員として活動を展開して、それをみなさんと共有し、それを還元していく。それが本来のあり方ではないかと思います。 部会制というのは難しいものではなく、身近なことを私たちが活動していく中で、共有していく中で、社会教育委員会としての存在意義がでてくるのではないのでしょうか。 (質問内容) ・学校でやること、家庭でやること、伝統的にやること全部包括して地域社会として教育レベルというか、いろんな意見をまとめながらどちらの方向に進めていったらいいかを、社会教育委員の立場で方向付けしていくのではないのでしょうか。 ・学校と家庭との結びつきは太くなっています。学校教育は育成に基づいて正論で教育をやっています。その教育を受けた子が企業に入り、企業文化にそって形成されます。そういうものを融合することを社会教育は担っているのであれば、そこに構成する人たちがやりやすい方向に道筋をつけるのが社会教育の人の立場。社会教育委員という立場にあるものが意見を調整すると私は思っています。
委員長	
各委員	

	・いろいろな団体の代表としてこの会に集まっている委員は、いろいろなことのノウハウを持っている。よそのつながり、どういう取り組みをさせていただいているのかを知るのも大事だろうということが、この間の部会でも出てきたように思います。 ・「学校と地域の連携協働」部会では、キーワードとしてはいくつか出てきていますが、地域の核になるものを押し出していろいろと取り組みをされています。分析をしますと、核があってもなくても、地域にいろんなものを核にして、これを核にしようという名物がなくても何か核づくりはできるのかなとは思いました。今までの家庭といえば親から子どもへ受け継いでいくという文化があった。今は親から子へはなかなかないので、2つ目のキーワードは親から子になるかもしれません。そのあたりをいろいろなイベント等を通して、親から子へのかわりに引き継いでいる行事等あるだろうということが出ていました。 3つ目のキーワードとして、そういうイベントには子どもの出番があり、子どもが出番として出てくると大人も動く、大人も集まってくる。そのあたりで学校と地域とがうまく連動しながら、イベント等をやっていくことも大事である。最終的には人が集うことを、いろいろな団体、学校、組織で考えていく、バックアップしていく、そういうようなことが大事だろうということが出ていました。 私たちはどうしたらいいかといったら、そのようなものが現実、現場でどのように行われているのか。いろんな仕掛けをして人を集めてくださる工夫は、それぞれの団体が集まってくださった融合体で仕掛けを作られていますので、本当にそういう仕掛けがどうなんやというのを、私たちが見たり、聞いたり、実際に感じた事を踏まえて市全体に、こういうふうな人の集う地域、しいては近江八幡市全体としてのこういうあり方がいいのではないかなというようなアドバイスが委員としてできるようになればいいのではないかな、というようなことが話しに出ていました。 そういう面で部会を進めていく上でいろいろなご指導をいただけたらありがたいです。
事務局	《部会別の意見交換会について・部会ごとの話し合い》 ① テーマ：学校と地域の連携・協働 ② テーマ：コミュニティセンターと社会教育
事務局	以上をもちまして、会議を終了させていただきます。閉会のごあいさつを副委員長からお願いします。
副委員長	閉会のあいさつ 5. 閉会